

10) 屋根周辺の意匠 [袖壁・力板・破風板・懸魚・雪止め板・さがりがけ]

三国のファサードの構成要素には様々な意匠がみられます。これらの意匠は必ず設置されているわけではなく、それぞれのデザインも各々の家で異なります。多様な意匠が、変化に富んだ三国湊の町並みを構成しています。

[袖壁] (そでかべ) 柱や壁から垂直に張り出した幅の狭い壁のこと。目隠しや延焼防止などの目的で設置されていると言われています。袖壁の木口には銅板などを用いた飾り金物が施してある例も多くみられ、各々の家で意匠が異なります①②。

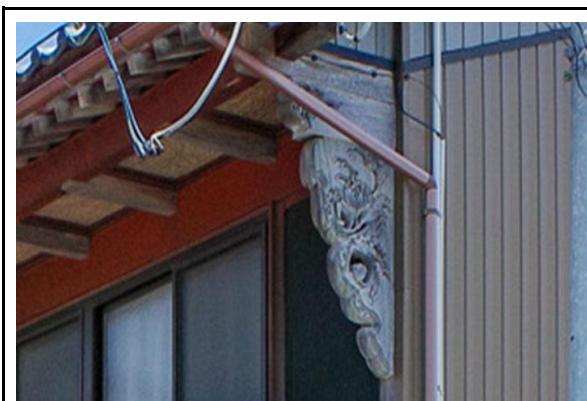


① 袖壁と飾り金物の例



② 袖壁と飾り金物の例

[力板] (ちからいた) 袖壁の代わりに絵様を彫った板の持ち送り①②。

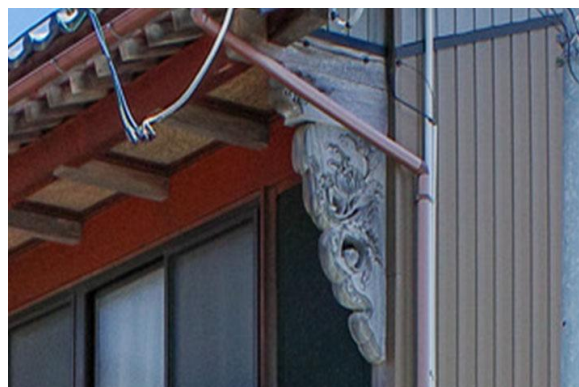


① 力板の例



② 力板の例

[破風板] (はふいた) 袖壁の代わりに絵様を彫った板の持ち送り①②。



① 力板の例

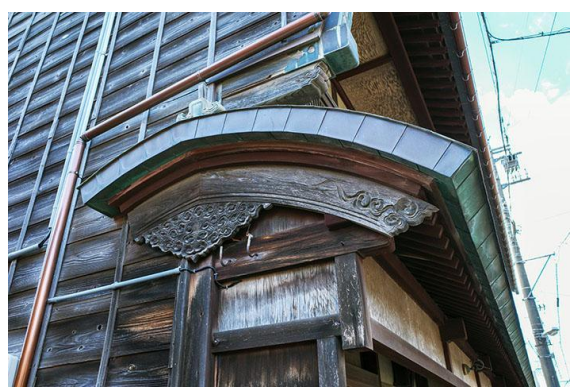


② 力板の例

[懸魚] (げぎょ) 破風板部分に取り付けられた彫刻彫の妻飾り①②。



① 懸魚の例



② 懸魚の例

[破風板] (はふいた) 屋根の切妻の端部を屋根勾配に沿って覆う板材のこと。彫刻の施された破風板もみられる①②。



① 彫刻のある破風板の例



② 彫刻のある破風板の例

【雪止め板】 小屋根に両端が反った雪止め板がのる場合がある①。通常、小屋根では雪止めを設けない場合が多い②。

	
① 雪止め板の例	② むくり小屋根等は雪止めを設けていない

【さがりかけ】 小屋根の下に幕板を張ったもの。金沢では「さがり」、京都では「おだれ」などとも呼ばれる①②。

	
① さがりかけの例	② さがりかけの例

POINT

- ▶ 色々な意匠が混在しており、各々の工夫がみられます。
- ▶ 既存の踏襲のみならず、創造性を持ってデザインできる場所の一つです。

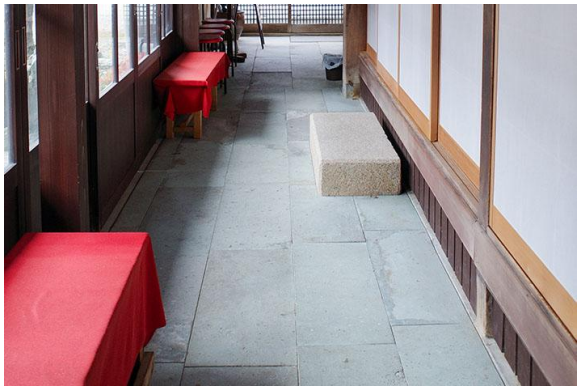
今後の課題

- ▶ 現存しているものを調査しアーカイブ化し、意匠性のものを残すことができる方策はないか、検討していく必要があります。
- ▶ 設置する際には意匠に拘ってもらいよう促すような方策が必要です。

11) 敷石

笏谷石（しゃくだにいし）は、福井県福井市の足羽山周辺で採掘される凝灰岩の石材で、水に濡らすと深い青色に変化する特徴を持っています。一乗谷や福井城下町をはじめ、福井周辺で古来より利用されてきた石材です。三国湊では江戸時代になって北前船が就航したことにより、船を安定させる役目を兼ねて船底に積み、越前特産の石材として主に日本海側各地に運ばれていきました。

町家や一般の住宅に至るまで、玄関先の敷石として笏谷石が利用されています。しかし1998年に採掘が終了してしまったため、現在三国湊の町で使われている石材は、貴重なものになっています。また、風化に強くないため、残っているものでも劣化の激しい場合が多くみられます。

	
① ミセやトウリにも用いられる	② 笏谷石を用いて改修された玄関周り

POINT

- ▶ 笏谷石は採掘が終了してしまったため、できるだけ再利用することが望ましいです。風化や劣化が激しく構造材や建材として利用できない場合も、化粧材や別の用途に転用するなど、三国湊の町の限られた資源を有効活用することが大切です。
- ▶ 地元の石材店などでは古材を積極的にストックしているところもあります。利用したい場合は、そのような所を尋ねてみると入手できるようです。

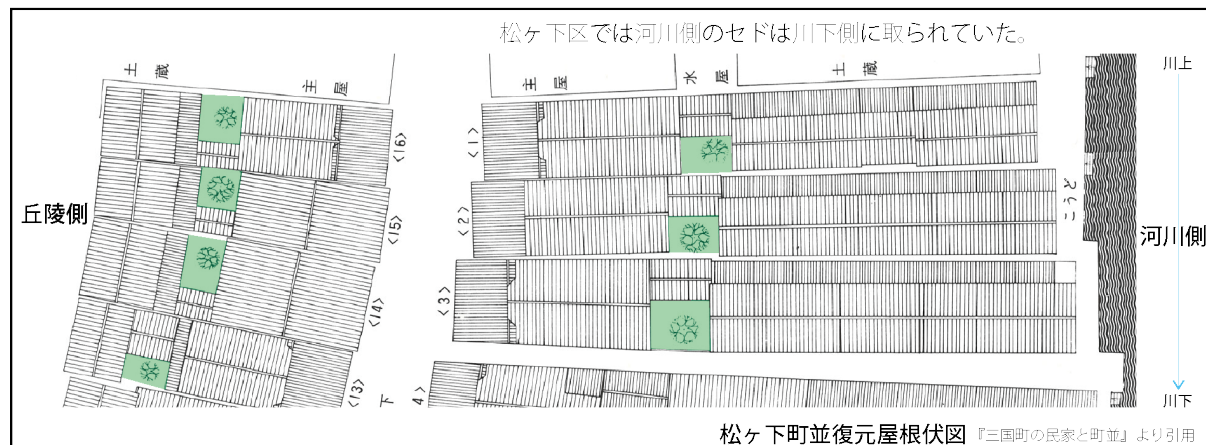
今後の課題

- ▶ 民間でのストックが行われていますが限界があるため、解体時にできるだけ保存回収できるような仕組みを確立していく必要があります。

12) セド（中庭）

主屋と土蔵の間にはセドと呼ばれる中庭空間が設けられていました。細長い敷地形状で採光や通風を確保するための合理的な形態となっていました。例えば松ヶ下区の河川側の敷地では川下側にセドが配置されるなど、地区での慣わしがある場合もあります。

現在では駐車場のスペースを確保するため道路からセットバックして建物を建てる 경우가多く、セドがない敷地構成の家々も増えてきています。



① セドの例（三国湊町家館）



② セドの例（旧岸名家）

POINT

- ▶ 短冊状の敷地を使いやすくするための形態であり、慣わしがある地区もあります。
- ▶ セットバックなど敷地構成が変化して、セドがなくなってきました。

今後の課題

- ▶ 今後、さらに減少していくことが予想されるため、今残っている通り庭の現況の使い方調査などを調査し、セドの現代的な意味を考えていく必要があります。

12) トウリ（通り庭）

表側の通りから敷地の奥まで1本の道のように抜けていく廊下をトウリ（通り庭）と呼びます。基本的には土間の仕上げで、座敷から1段下がったレベルになっています。このトウリには台所や厠など水回りが並び、井戸や排水設備なども設けられていました。

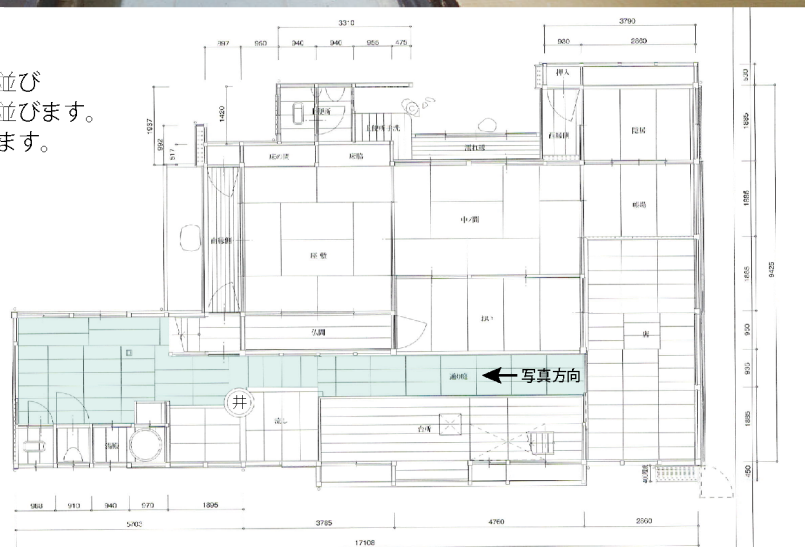


復元改修された旧岸名家の通り庭

通り庭から向かって右手に座敷が並び
左手には台所や湯殿など水回りが並びます。
中央部分には井戸も整備されています。



改修前の旧岸名家の通り庭の様子



旧岸名家（改修後）平面図

『旧岸名家住宅・三国湊町家館 修理および改修工事報告書』より引用

POINT

- ▶ 短冊状の敷地を使いやすくするための形態であり、笏谷石が用いられてきました。
- ▶ 井戸を中心として台所などの水回りが並んで配置されていました。

今後の課題

- ▶ 今後、さらに減少していくことが予想されるため、今残っている通り庭の現況の使い方調査や劣化具合を診断していくトリアージなど、保存や活用のための方策が必要です。